

グラフィックサービス

発行：一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会


JaGra

● 巻頭企画

それは一冊のノートから

“紙印刷の創出”と“社会貢献”と

(株)新踏社 (奈良) さんの事例

● 連載

印刷産業における取引環境実態調査⑤

我が社の自費出版事情③

(有)一粒社 (愛知) さんの事例

● NEWSとお知らせ

北海道・東北地方の支部長会を開催

コロナ禍における各支部・各社の現状について情報交換

テレワークに伴う個人情報漏えい事案に関する注意事項

個人情報保護ガイドブック 第6版増補版を発行

業界の動き

中村会長に藍綬褒章


No.828
2020
11

電子版無料公開中!

スマホでも本誌が読めます
公式HPで本誌PDF版を公開中。
紙媒体より1週間早い毎月中旬に
ご覧いただけます。バックナン
バー閲覧もこちら!



<https://www.jagra.or.jp/>

なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。
会長の中村耀です。

アメリカの大統領選や日本の菅新政
権のスタートなど、政治面で落ち着か
ない日々が続いていますが、皆様いか
がお過ごしでしょうか?

新型コロナウイルスの影響により、
印刷業界も売上げの減少を余儀なくさ
れています。こうした中、最近叫ばれ
ている「7割経済」にどのように備え、
対応していくか問われています。通常
であれば印刷業界は繁忙期へと突入す
るところ、多くの会社が例年通りの受
注に苦戦を強いられることと思いたす
ますが、ここを乗り切って来年へつなげ
ていきましょう。

CONTENTS

●巻頭言

1 最近のニュースから感じること

—— ジャグラ理事/㈱中島プリント商会(群馬) 中島 博

●巻頭企画

2 それは一冊のノートから “紙印刷の創出” と “社会貢献” と

—— ㈱新踏社(奈良) 安達香奈子

●緊急のお知らせ(新型コロナ関係)

10 10.6 北海道・東北地方の支部長会を開催

—— コロナ禍における各支部・各社の現状について情報交換

11 テレワークに伴う個人情報漏えい事案に関する注意事項

—— 個人情報保護委員会が漏えい事案2事例を公表

●連載

14 印刷産業における取引環境実態調査⑤ 事業改善の機会

—— 経済産業省の調査報告書より

24 我が社の自費出版事情③

—— (有)一粒社(愛知県半田市) 絹川 周 作

●NEWSとお知らせ

13 印刷業界の 個人情報保護ガイドブック 第6版増補版を発行

18 企業情報

—— ホリゾンとSCREENがAIソリューションの共同開発に合意

18 JIPDECが注意喚起 マルウェアEmotetにご注意を!

22 理事会&委員会通信

—— 経営技術研究委員会/マーケティング委員会/生産性向上委員会 議事録より

23 業界の動き

中村会長に藍綬褒章(令和2年秋褒章)

27 Adobe Flash Player のサポートが今年いっぱい終了

29 ジャグラBB HOTNEWS

17 新年名刺広告のご案内

20 法親会のご案内

23 会員の異動(新入会)

28 事務局日誌とスケジュール

月刊

グラフィックサービス

発行 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

最近のニュースから 感じること

ジャグラ理事/㈱中島プリント商会(群馬) 中島 博



テニスの大坂なおみ選手が、全米女子オープンで見事に2度目の優勝を果たした。解説者の杉山愛さんによると、今回の勝因は第2サーブだったという。

テニスの試合は「サーブ(serve)」で始まる。serveとは「仕える、奉仕する」という意味の英語だが、どうして試合で「サーブ」と言うのか? それは昔、主人がラケットを構えているところに、召使い(サーバント)がボールを投げ入れ、それを打って遊んだのがテニスの始まりだったから。召使いは、ゴルフ練習場のボールをセットする装置の役をしていたわけだ。サービス・エースなどと言うが、もしも主人が打てないようなボールを投げたら、怒鳴りつけられたに違いない。

テニスが現在のような試合形式になったのは、12世紀頃のフランスでのこと。召使いがコートの外からボールを投げ入れることから試合が始められたという。この行為をフランス語でserviceと言った。ヨーロッパの使節団が、中国の王様の前でテニスの試合を披露したところ、「どうして召使いにやらせないのか」と言われた。肉体を使うのは下々の役目だった。

serveには「宮殿に仕える、役所で働く」という意味もある。公務員は英語でpublic servant。「公僕」

という言葉はその訳語だろうが、最近の公務員は誰のために働いているのか理解していないように思える。

役所は、国民、市民のために行政サービスをする所のはずだが、官邸の顔色ばかり見ている。首相に忖度し、公文書は平気で改ざんするし、証拠の資料は破棄したとうそをつく。ばかげた無駄遣いだったアベノマスクだが、マスクを配りさえすれば国民は安心する、と進言した官僚出身の側近がいたらしい。

日本に公務員はどれくらいの割合でいるのだろうか。簡単には出てこなかったが、やっとのことで調べたら約11%だった。官庁や役所だけでなく、警察や消防、自衛隊、教員、わけの分からない外郭団体もあるし、少なくとも10人に1人が公務員だということになる。米国ではもっと多く、約13%が公務員だった。

公務員は仕事をしていないとか、必要ないと言うつもりはさらさらないが、公務員は自分で稼がずにただ使うだけなので、コスト意識があるはずもなく、非常に効率が悪く見える。どんなに無能でも首にならず、リストラの心配もない。無駄金をつかったり、間違いをおかしても謝罪しない。

ほとんどの官僚や公務員は、優秀で使命感を持って仕事をしていると思うが、近頃、首をかしげるニュースが多いのが気になる。



全国どこからでも受講できる

オンライン指導ご相談受付中

Illustrator・Photoshop・InDesign・Lightroom・Acrobat・
印刷用PDF・Dreamweaver・ウェブ基礎・ウェブアクセス解析・
HTML・CSS・WordPress・JavaScript・Premiere Pro・
After Effects・映像制作基礎 ほか全36講座

ジャグラ本部9F JaGraプロフェッショナルDTP&Webスクール

<https://www.jagra.or.jp/school/>

それは一冊のノートから

“紙印刷の創出”と“社会貢献”と

(株)新踏社(奈良)

同社取締役 安達香奈子



チャリティノート『ノーモ』



じゃばにうむ 2019 で事例発表する筆者
講演動画 https://youtu.be/1vZL19_l9ek (日印産連提供)

ジャグラなど印刷関連団体 10 団体で組織する (一社) 日本印刷産業連合会 (日印産連) は、本年 2 月に『じゃばにうむ 2020 印刷産業の地方創生事業事例発表会』を開催し、印刷会社が取り組む地方創生・地域活性化の事例発表を行いました。ジャグラ会員である栃木の株みやもとさんと大阪のハウユウ(株)さんも事例発表を行い、その模様を本誌 3 & 4 月号において紹介しましたが、昨年 2019 年 3 月にも同様の発表会が開催され、そこでもジャグラ会員である奈良の株新踏社さんが事例発表を行っておりますので、今月はその概要を中心に寄稿いただきました。

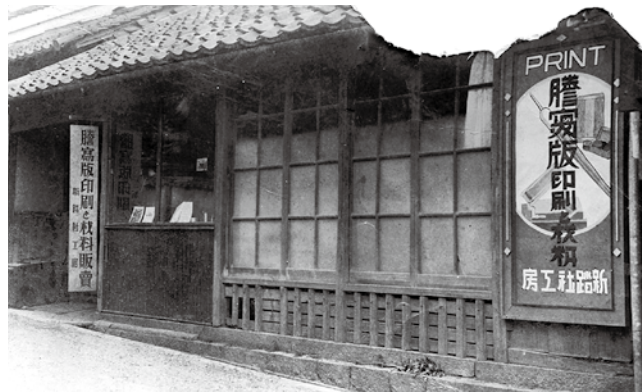
【じゃばにうむ / Japaneumn】https://www.jpfi.or.jp/topics_detail6/id=184
日印産連が構築する印刷産業界のインバウンド事業およびインバウンドニュースを扱う情報共有・情報交流 Web サイトのこと。印刷産業各団体・企業のリソースを中心に、印刷会社が取り組む地域連携や産学官連携によるインバウンド事例を紹介しながら、印刷産業の事業領域の拡大をめざす。日本の地域産業の活性化と同時に印刷産業の新たな価値創出を図り、事業領域拡大をめざす手がかりを発掘する。「じゃばにうむ」とは、Japan Printing Alliance News Columns を縮めた造語。

価格破壊の中で気づいた 5 つのこと

『わらしべ長者』という昔話があります。一本のわらしべが次々と価値のある物に換わっていく物語。決して長者になったわけではありませんが、一冊のノートから様々なものへ広がっていった様が、「何か似ている……」と最近思うことがあります。

日ごとに秋色が濃くなる奈良公園、その目と鼻の先にある弊社は、ガリ版印刷を手がけた初代から引き継ぎ、現在で三代目、来年で創業 90 年を迎えます。県庁や大学等が点在する中に位置することから、重要案件・特殊案件なども依頼され、印刷業における実績と信頼を積み重ねてきたと自負しています。

昭和 6 年 2 月に奈良県唯一の謄写印刷専門業として奈良市で開業した同社の当時の写真 (一部破損) 創業者安達友治氏はジャグラの前身「日謄連」の初代奈良県支部長



しかし、10 年ほど前から奈良県にも電子入札システムが導入され、従来の実績は関係なく、価格ありきの発注に変わりました。当初は様子を見ながら落札できる価格を提示していましたが、価格破壊ともいえる状況が続き、毎年その額を下回る額が更新されるようになりました。

そのような流れの中で、ふと立ち止まりました。私たち印刷を生業としている者ができることは何か、改めて考えてみたのです。確かに「お客様が伝えたい情報」を「要望通りに作って届ける」というのは基本です。しかし、その要望がくるのを「待つだけ」という現状はどうか、せっかく情報を広く伝えるためのスキルを持ちながら……。ならば「私たちが能動的に発信する何かを生み出せばいい」、そんな思いが徐々に大きくなっていきました。

2016 年春、その頃、流行っていた E-book のソフトを導入してみました。しかし作成する側がどうもじっくりこないものを、お客様に薦めることは不可能だということが分かりました。それから気づいたことは、

- ①自分たちが得意なものであること
- ②アナログなものであること
- ③現状の設備で対応できること
- ④一般の方が持つ印刷会社の敷居を低くすること

そして何より一番強く思ったのは、

- ⑤互いが共に嬉しいものを作る

という条件でした。

チャリティノート『ノーモ』の誕生

この条件を踏まえて誕生したのが『ノーモ』です。と言えばとても大げさですが、単なる A 5 判変形の無線綴のノートです。ただし一冊からオリジナルを作成します。普通、ノートというのは糸かがり製本ですが、それは自社内では不可能なので、ノート未満メモ以上ということで『ノーモ』と名付けました。

最初にしたことは、ロゴマークを作り、商標登録することでした。ちゃんと名前を与えることで、何でもないものが使命を帯び、自立できると考えたからです。寄付金の要素を付け加えたのは、前述の「互いが共に嬉しいものを作る」という思いから。自分の経験から、募金をするこのハードルを下げたかったのです。

奈良の平城宮跡では春と秋、「天平祭」というイベントが行われます。2016 年、『ノーモ』発表の場をそこに決め、



『ノーモ』のロゴマーク



『ノーモ』菓子司 中西与三郎



『ノーモ』植村牧場



『ノーモ』熊本地震支援



2016 年 4 月 天平祭ブースで販売

寄付金付き『ノーモ』に協力していただきたい相手先に早速働きかけました。

奈良公園を取り巻く旧街区には老舗といわれる店舗が多く、その中で表紙のデザインにしたい 2 軒にお願いに伺いました。創業 100 余年の菓子司中西与三郎様には生菓子を、植村牧場様には明治から続く木製牛舎をそれぞれモチーフとして使用させていただきたい旨を説明しました。

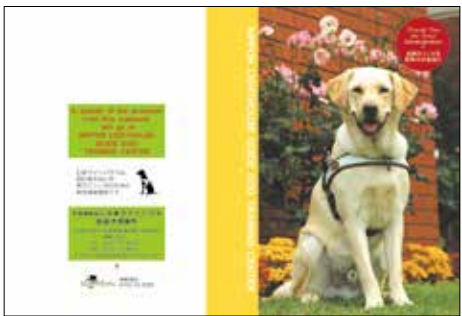
基本、一冊 200 円で販売し、内 50 円を希望の団体に寄付をするというもので、両店にはその年の初めに発生した熊本地震被災地への寄付になることを伝えました。両店とも突然の訪問にも拘らず早く承諾をして下さり、かえってオリジナルができることを喜んでいただけました。加えて、弊社のオリジナル『ノーモ』も作成しました。



『ノーモ』奈良の鹿愛護会



2017年6月鹿苑ブースにて



『ノーモ』日本ライトハウス盲導犬訓練所

また、地元として見過ごすことのできない『一般財団法人奈良の鹿愛護会』と、個人的に盲導犬育成のボランティアをしている『社会福祉法人日本ライトハウス盲導犬訓練所』のための『ノーモ』も制作しました。どちらも写真素材の提供はしていただきますが、グッズとしての在庫を持つことなく、販売分だけ一冊 50 円の寄付が生まれる形です。奈良の鹿愛護会様との接点は、その時点では会長の名刺印刷程度でしたが、あらかじめ『ノーモ』の見本を作成して説明に伺ったところ、快諾をいただきました。

天平祭での3日間のブース販売は何もかもが初めてで、費やした時間や経費を考えるとマイナスだったかもしれませんが、それ以上に前を向いて進むための土台となったのを確信しました。

それから一か月後、今度は奈良公園の鹿苑^{ろくえん}において『子鹿公開』というイベントが6月いっぱい開催され、そちらにも毎土日にブースを出させていただくことになりました。用意したのは、鹿苑でその春一番に生まれた子鹿を表紙にした『ノーモ』。前年の一番子鹿の写真も提供いただき、2015年版と2016年版を数種類作成したところ、鹿の写真の珍しさもあって一か月で約1000冊を販売しま

※鹿苑：奈良のシカの保護施設

した。「可愛い」といって喜んでくださる方、「寄付になるのなら」と購入してくださる方、「お土産にちょうどいい」といってくださる方、その笑顔を見ながら、従来の仕事とは別の充足感を覚えました。現在では毎年のシリーズものとして認知していただき、「今年の子を」と購入して下さるリピーターも増えました。また毎年10月に開催される『鹿の角きり』でも、角きりデザインで作成したものをブース販売し、売上額の4分の1を同様に寄付に充てています。

日本ライトハウス盲導犬訓練所様についても、提供していただいた盲導犬候補生の子犬の写真で作成した『ノーモ』を委託販売していただいております。日程があれば私たちもイベントに出向いて販売の手伝いをします。先方からは、「すぐに完売してしまう」という言葉をいただいております。

クラウドファンディングを活用

そのような活動を一年続け、2017年春にはある程度数字的に実績が出ました。そこで以前から挑戦していた平成28年度補正ものづくり補助金交付事業に応募したところ採択を受け、より『ノーモ』をスピーディに提供できるようになりました。寄付金付だけでなく、個人依頼のもの、スポーツクラブのグッズ、各種イベントの記念品など、急な発注にも必要数を迅速に作成して用意できる体制です。売上額は些細なものですが、多方面への繋がりという点で『ノーモ』は大いに貢献しています。

奈良の鹿愛護会様と親しくなるにつれ、対外的なイベントに呼んでいただいたり、また『ノーモ』販売の手伝いを買って出たりするようになりました。2017年秋頃、そのように鹿苑や奈良公園に通う機会が増えると、今まで気づかなかったことが見えてくるようになりました。

第一は愛護会の職員さんたちの仕事の多さ、大変さ。10名程の人数で、公園の鹿に関するあらゆることに対応されているので、PR活動まで手が回る状況ではありません。ならば我々が“伝える”ことを担えればと思うようになりました。

第二は、現在の奈良公園の現状、鹿たちが直面している問題でした。奈良公園にはごみ箱が設置されていません。鹿の誤飲・誤食を防ぐためですが、近年激増しているインバウンド向けの説明はないに等しいです。ブースに立っていると、観光客が捨て場に困ったごみを引き受けることも多々あります。そのような場面が度重なりと“ちゃんと伝える・説明すること”を怠っているのは我々ではないかと



左) クラウドファンディングの募集ポスター
上) 奈良新聞の紹介記事 (2018年4月)

思うようになりました。

「行政はどうして何もしないのだろう?」と言っているも仕方がなく、目の前の現実を何とかできないかと思い始めたとき、クラウドファンディングを活用して地域活性化をめざす新規事業の募集があることを、県の広報紙で知りました。資金を集めるためのサイト運営費用を県が補助するというものです。書類を揃える面倒や、クラウドファンディング自体を漠然としか理解していないこともあり、しばらく応募を悩んでいました。しかし、一企業が何かをする場合、やはり県のお墨付きをいただいた方が絶対有利だろうし、広くこの問題を世に問う良い機会になるのではと思い、だめもとで締切間際に応募しました。その結果、お陰様で「平成29年度ならクラウドファンディング活用支援事業者」に選んでいただきました。『奈良公園鹿と共生雑貨づくりファンド』の始まりです。

紙から布へ——初めての試み

ファンド運営会社との打ち合わせを重ね、2018年2月末から投資家募集が始まりました。県の応援企業ということで地元メディアでも紹介していただきました。内容は、奈良公園にポイ捨てされるごみを少しでも減らすため、奈良らしい雑貨を作り出すというものです。注意事項を多言語表記した紙袋や、奈良特産の蚊帳生地で作るエコバッグを企画しました。紙製品は守備範囲のものなので、試作も早くできるだろうと高をくくっていましたが、紙の材質にこだわるほど印刷工程やコスト的に難しいことが分かり一旦棚上げしました。

ファンド紹介には“奈良の老舗印刷会社が挑む”という肩書がついています。もう一方の、布製品という印刷物と全く畑の違うものを、一から作り出すという作業はまさに



左) 奈良特産の蚊帳生地で作ったエコバッグ「OTOMO」のPRポスター
上) 奈良の鹿愛護会SNSでもPR

挑戦です。作りたいもののイメージは頭にありますが、それを現実にするにはまずどうすればいいのかというところからのスタートでした。地元で蚊帳布巾を製造する老舗会社を訪ねてみましたが、新規は難しいということで断念しました。

このような状況で感じたのは、印刷業の特権=様々な業種の方がお客様であるということでした。自店でオリジナルの蚊帳布巾を販売されている顧客に紹介していただいたのが、現在作製をお願いしている会社です。蚊帳布巾製造を専門に起業された県外の会社で、この企画を面白いと言ってくださり、素人相手に本当に根気よく付き合ってください現在に至っています。

特に難しかったのが色目で、紙に印刷する色と、布に染める色は全く異なります。しいて言えば、薄い蚊帳生地を重ねて出る色は、ダブルトーンの世界です。難しいけれど、とても面白いことを初めて知りました。本業（印刷）をしながらのことなので、なかなか集中することができず、結局完成まで一年を要しました。その間、亀の歩みのような打ち合わせに付き合ってくださいったことにととても感謝しています。

『ノーモ』の新しい動きとしては、新規顧客として2軒のホテルでオリジナルを作らせていただきました。これらも地元新聞社（弊社の顧客）のご紹介であり、とてもありがたいことです。

SNSにTVに

例年、年度末は通常よりはるかに慌しくなりますが、2019年はそれに輪をかけた感じになりました。ファンド募集が2月28日で終了し、結果100人近い投資家の賛同をいただきました。お見せできる製品（最終形のもの）も

なく、月に一度ほどのブログで報告や理念を伝えるのみだったのです。本当に有難く思うと同時に、リアルに会えないネット上の繋がりの力というものを感じずにはいられませんでした。

そして3月には、東京で開催される『じゃばにうむ2019』に恐れ多くも発表の場をいただくことになりました。当日は、全国から選ばれた各社の長年に亘る活動やその内容の素晴らしさに、ただただ感服するばかり。弊社は“伝えることが大事”という題目ながら、実際は技量不足により自分の思いを全く伝えきれなかったという後悔が残りましたが、「井の中の蛙が大海を知るとはこのことか!」ということをもって経験し、とても勉強させていただいた時間でした。

同じ頃、クラウドファンディング事業の方も、思い描いていた製品がやっと完成。しかし物ができて終わりではなく、大事なのはこれをいかに広めていくかということです。基本、“印刷物で広める”ことをしてきた私たちです。でも、今回はそうではない、何か別の方法でないか、と漠然と思っていました。とりあえずは奈良の鹿愛護会様に完成の報告に行き、職員の皆さんにも率先して使っていただくようお願いしました。すると、そのことをツイッターであげてくださり、思いもよらない広まり方になりました。今まではどちらかというと斜に構えて見ていたSNSというものの凄さを実感することになりました。

その頃、“奈良公園の鹿の胃袋からゴミの塊が”ということが全国ニュースになり、一気に奈良公園のゴミ問題がクローズアップされることになりました。実はそのニュースが出る前から、NHK奈良の記者の方から取材の申し込みを受けていました。民間の一企業がどうしてこのようなアクションを起こしたのか、というところに興味を持ってくださったそうです。また、朝日新聞のローカル面に記事を、NHKでは「おはよう日本」という全国ネット番組で

社名は出ないものの紹介していただきました。当の本人が動かずにいるうちに周りに風が起きている——まるで台風のような感じでした。

人が集まる

NHKニュースの放送当日、私たちの活動を知った古い友人から突然連絡がきました。奈良公園の現状を少しでも良くするために、是非一緒に何かをやろうと言うのです。そこでお互いの知人に声をかけて、様々な専門分野をもつ7名で『奈良公園ゴミゼロプロジェクト』を立ち上げました。事務局は弊社に置き、専用のHPを開設しました。

まずは、インバウンドを含む増加する観光客に向けて、ゴミのポイ捨てをしないなど、マナー向上啓発のための多言語表記のポスター・チラシを作成、県や鉄道の主要駅に掲示をお願いしました。またシンポジウムを開催し、我々の考えを広く聞いていただく場を設けました。それらの費用は、同時に立ち上げたクラウドファンディングの賛同者の支援によるものです。月に一度の奈良公園のゴミ拾いを『ゴミゼロウォーク』と名付け、HPで参加を呼びかけると、毎回県内・県外併せて約30名ほどがボランティアとして来てくださいます。全く見ず知らずの方々が、「奈良公園の環境をよくしたい」「鹿たちを守りたい、何かできることがあれば」と集ってくださるのです。ほとんど奇跡のような繋がりが生まれています。

さらに、この秋には「顔出しパネル」が完成します。奈良公園の鹿たちからのメッセージを多言語で表記したものです。当面は奈良の鹿愛護会様の事務所入り口と、イベントごとに持ち込む移動式になりますが、多くの観光客や修学旅行の生徒さんなどに記念撮影をしてもらい、おおいにSNSで発信していただきたいと考えています。

完成したエコバッグに関しても、その商品を中心に人の

輪が広がりました。こちらでも突然に、奈良の老舗土産物店さんから連絡がありました。東京のお得意様から、ツイターで見かけたので仕入れてほしいと要望があった、とのことでした。すぐ近くにあり、何度も前を行き来している店舗です。“土産物店”なので、地元の私たちは訪れても数回ほどでした。それが今では一番の協力者となり、また、その店の常連さんたちが拡めてくださったり。その方々からの要望を受けて、大きなサイズのエコバッグを一年かけて完成させることになりました。新しいアイデアももらい、WEBとリアルを行ったり来たりして、どんどん進化しています。

そしてこれから

ものづくり補助金の申請時から掲げているのは“奈良発の三方良し”です。売り手（作り手）・買い手・地域のトライアングルのどこかが突出するのではなく、関わるもの全てがバランスよく利（福）を得ることです。

現在私たちが行っていることは“印刷”の範疇を離れているかもしれませんが。しかしどれも“印刷”というものに長年関わってきた経験があるからこそできたと確信しています。私たちがつかんだ“わらしべ”は一冊のノートでした。昔話と違う点は、“わらしべ”を手放すのではなくしっかり握りしめたままで、周りから色々なものを与えられているイメージです。それは目には見えないものですが、心がどんどん膨らんでいます。

できることなら、ジャグラ内で『ノーモの会』のようなものを作り全国で繋がることできれば、また新しい何かが、大きなうねりが生まれると思っています。それぞれの地域に、普段あまり気につけないけれど、実はすごく大切

奈良・新踏社/それは一冊のノートから

なもの、残していかなければならないものがきっとあるはず。私たちにとっては、それが空気のような存在の奈良公園＝鹿たちだったのです。いったん目を向けてみると、今まで気づかなかった伝えなければいけないことが山ほどあるはず。

全国で繋がって活動することで、今まで知らなかった地域の宝や、その問題点を情報交換するだけでも、私たちが住む日本を知ることになります。そして課題を解決するアプローチはSDGsにも則った活動でもあるのです。なんてワクワクする仕事でしょう。

来る12月7～9日に、東京ビッグサイト／青梅展示棟Aホールにて「中小企業 新ものづくり・新サービス展」が開催されます（下記参照）。昨年の『じゃばにうむ2019』での経験もふまえ、ブース出展することになりました。“伝えることが大事”を胸に、私たちの経験をお伝えできればと思っています。一握りの“わらしべ”を持って。



ブースD37に出展します

<https://www.shin-monodukuri-shin-service.jp/>

『ノーモ』実績データ

■寄付金付き関連

奈良の鹿愛護会、日本盲導犬協会ライトハウス、植村牧場（明治16年創業）／熊本義援金、菓子司中西与三郎（創業100年の和菓子店）／熊本義援金、オリジナルイラスト／セーブザチルドレン、オーストラリア森林火災義援金 etc.

■イベント記念品関連

奈良県退職校園長会、奈良県児童連盟、近畿高校バレーボール選手権、50 Mダッシュ王選手権（1000名参加）、関西バス祭り、近畿国立学校養護部会奈良大会 etc.

■学校・スポーツ関連

奈良〇〇短期大学オープンキャンパス用ノート、⑦大阪〇〇短期大学オープンキャンパス用ノート、プロバスケットボールチーム選手ノート、プロサッカーチームジュニアユース部門サッカーノート

■個人・その他

〇〇先生絵画個展、お宮参り等の親族の集まり、マイ・ペット、〇〇教室クリスマスプレゼント etc.

4年間のイベント参加数は24回、『ノーモ』による寄付総額は約50万円
可能性は無限に広がります ご興味をお持ちの方はお気軽にご相談ください

『奈良公園ゴミゼロプロジェクト』の活動
左より、プロジェクト SNS (https://nara-gomi-zero.com/)、「ゴミは、あかん」ポスター、顔出しパネル、ゴミゼロウォーク





SHOWA

ユーザーサポートこそ商品

株式会社ショーワは、謄写版および付属品の販売と謄写印刷業の＜昭和謄写堂＞として、昭和3年に幅弓之助が創業しました。
創業者の幅弓之助は「良いものを売り、売ったものには責任を持つ事」に頑固なまでにこだわり続け、そのこだわりは創業から100年に向けて今なおショーワの社員一人一人にDNAとして脈々と受け継がれています。

長きに渡り、多くの取引先企業様より厚い信頼を寄せて頂けるのも、企業理念にもあります様にユーザーサポートという目に見えない、形のない「商品」だからこそ、付加価値を創造し続け、溢れる情報、市場状況を正確に分析・判断しうる知識とユーザーサイドで常に物事を考える「誠意」が評価して頂けているものと考えています。

今後も常に「ユーザーサポートこそ商品」の企業理念、創業者・幅弓之助の熱い志を胸に社員一同業務につとめていく所存です。

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるショーワユーザー会

コラボレーション＆リサーチ

SHOWA会

ユーザー会で密に情報交換

年間活動

- 研修会 ○工場見学 ○総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行 ○有志グループ活動

問い合わせ、入会お申込みは事務局まで
SHOWA会事務局 TEL.03-3263-6141 FAX.03-3263-6149



株式会社

ショーワ

プリントメディアの総合商社

<http://www.showa-corp.jp/>

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2 丁目 7 番 8 号 TEL 03-3263-6141 (代) FAX 03-3263-6149

FUJIFILM

Value from Innovation

完全無処理版で、自動化への第一歩を!

刷版工程の効率化・省力化にはさまざまなアプローチがありますが、
その要となるのは、無処理版へのシフト。
「完全無処理化」が、CTP自動化の起点となり、
スマートファクトリー構築への大きな一歩になります。

※QRコードより各製品の動画や製品情報がご覧いただけます。

パレットローディングシステム



- 最大積載枚数1,200枚
- 刷版の装填回数削減
- 装填作業の負荷低減



インクジェット印字装置

- インクジェットで版面にジョブ名を印字



自動ベンダー

- ベンド（版曲げ）作業の負荷低減



完全無処理CTPプレート

- 高耐刷・UV対応の完全無処理CTPプレート
- アルカリ現像・ガム処理工程の削減
- 自動現像機メンテナンスの削減



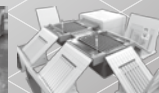
CTPセッター

- 最高70版/時の安定した高速出力



刷版自動振り分け装置

- 印刷機ごと・版サイズごとのストッカーへの仕分け



刷版工程自動化ソリューション

Prepress Factory Automation

完全無処理CTPプレート SUPERIA ZD-II

ロングランからUV印刷まで、さまざまなお仕事で安心して使える、汎用性に優れた完全無処理プレートです。

無処理化の3大メリット

1 人材を有効に活かせる!

2 省スペース化が図れる!

3 環境負荷低減に貢献できる!

完全無処理プレートを
導入されたお客様の声を
ご紹介しています。

FFGS 無処理



富士フイルム グローバル グラフィック システムズ株式会社

10.6 北海道・東北地方の支部長会を開催

コロナ禍における各支部・各社の現状について情報交換

10月6日、北海道・東北地方の支部長会が開催されました（Zoomによるネット会議）。この会合は地協及び支部活動を支援するコミュニケーション事業の一環として開催したものです。今後は地協会長の方々にお集まりいただき開催を予定しています。

×

■議題

コロナ禍における支部活動と各社の現状。

■参加者

本 部：沖専務、熊谷正司副会長、向井理事

北海道：渡辺支部長（兼全国理事）

青 森：渡辺支部長

秋 田：松原支部長

岩 手：菅原支部長

宮 城：熊谷晴樹支部長（兼全国理事）

山 形：後藤支部長

福 島：伊東支部長

■内容

1）本部より報告（沖専務）

①ジャグラ本部の主なイベントはコロナ禍のため中止。

②Zoomを利用しての諸会議・活動を活発に行なっている。

③全国的に4～6月は10%～20%、7～9月は30%以上落ち込んでいるのではないかと。

2）各支部の報告

◎北海道

①Go To キャンペーンは北海道では効果は余り無し。

②支部会員とはメールで情報交換をしている。

◎青森

①紙業会社の話では東北地方の用紙出荷額は40%落ち込んでいるとの事。

◎秋田

①支部会員は秋田市内が主なので、2月以降の理事会は4月・6月・8月の3回市内に集まって開催した（2次会は無し）。

②61回続けて毎年開催している支部の社員家族も参加してのレクリエーション大会が中止となった。

◎岩手

①3月に支部会員1社が廃業のため退会されたのが残念。

②6月に初めて理事会をZoom（ジャグラ本部のアカウントを借用）にて開催。同様に8月・10月も行なった（計3回）。

◎山形

①5月の東北地協総会山形大会が中止になったのが大変残念。大会準備のために支部会員が集まる機会がなくなった。

②この状況が続けば会費徴収が難しくなるのではないかと。

◎宮城

①支部会員がほとんど仙台市内なので、毎月理事会を市内にて集まって開催している。

②話し合いをしてもイベントがなかなか出来ないのが辛い。

◎福島

①支部活動は、1月／定例会、6月／総会書面議決にて、7月／家族を含めての定例会、10月／Zoom会議での定例会を計画。

②コロナ禍において各種補助金・助成金を活用しての県内における設備投資（機械設備・建物等）はかなりされている。

③来年の東北地協総会福島大会の準備を鋭意進めている。2部構成によるセミナーを計画（支部会員・昨年秋田で行なわれたPRINT Next メンバー）。

3）各社の現状

①各社とも他地域と同じ位売上が30%ほど落ち込んでいるのではないかと。売上の落ち込みだけではなく、どの地域の状況も同じように思われる。

②学校関係の仕事が激減。

③各県支部会員のほとんどが雇用調整助成金や各種補助金を活用し何とかやっている。問題は来年1月以降で、社員の給与の減額、数名の解雇も考えねばとの意見も有り。

4）その他

①熊谷晴樹東北地協会長より11月17日に東北地協幹事会をZoom会議にて開催する旨の報告、熊谷正司副会長・向井理事より、本部活動と各委員会の活動報告があった。

②Zoomでの会議は、日時や場所（移動距離）にこだわらず開催でき、支部や地協の活性化に繋がる。東北地協では独自にZoomアカウントを取得した。

（報告：向井理事）

その他地域の近況報告

◎北陸地協

コロナの影響で各県支部とも全く活動できていない。状況が長期化すると、将来展望が望めず廃業倒産へと深刻化する会員も出て来ると考えられる。来年1月開催予定の北陸地協総会も開催するかどうか各県支部長と検討中。

（報告：高橋理事／北陸地協会長）

◎東海地協・愛知県支部

地協としての活動はない。愛知県支部の状況は以下の通り。

①9月よりリアル例会を再開した。

②コロナ関連の補助金及び助成金のセミナーを実施。

③ゴルフ例会を10月に開催予定。

④8月に2022年開催 第64回ジャグラ文化典愛知大会の準備委員会を発足。

⑤大会日程を2022年6月4日（土）、会場を名古屋観光ホテルでジャグラ本部に上程する。

⑥大会の担当旅行代理店を東武トップツアーに決定した。

⑦実行委員会の組織案、大会テーマ、併催旅行等の検討をした。（報告：岡本副会長／東海地協会長）

テレワークに伴う 個人情報漏えい事案に関する注意事項

個人情報保護委員会 令和2年9月23日

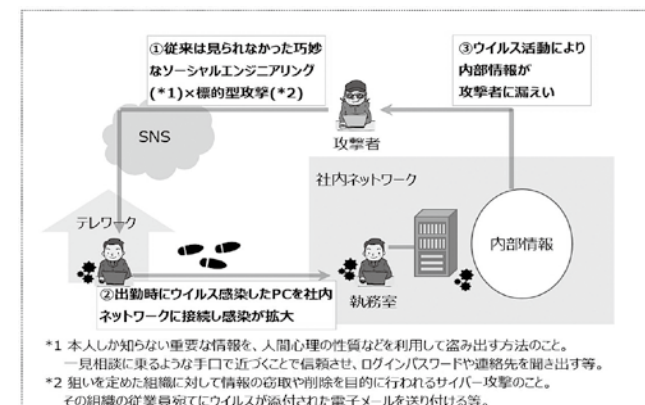
新型コロナウイルスの影響でテレワークの利用が広がる中で、これまで総務省、経済産業省、（独法）情報処理推進機構をはじめ多くの関係機関がセキュリティ対策を公表していますが、個人情報保護委員会でも9月23日に同委員会が実際に確認した個別個人情報漏えい事案2例を公表しました。個人情報取扱事業者の皆様には、発生した内容と考えられる対策を参考にしてください。

×

事例1

テレワーク中の社員がSNSで知り合った第三者からウイルスが添付された電子メールを受領したことがきっかけでPCがウイルスに感染し、出勤時にそのPCを社内ネットワークに接続したことで、社内システムの情報が外部に漏えいした事例

◎攻撃手法のイメージ図



◎対策例

①テレワーク環境ではVPN機器※へ接続しない限りインターネットを利用できない仕組みを導入することで社内と同等のセキュリティ対策を適用する。（※インターネット上に安全なセキュリティ経路を作るためのネットワーク装置）

詳細はこちらで→ https://www.ppc.go.jp/news/careful_information/telework/

あなたの会社を守る ジャグラ・グループ保険

特長1 掛金が割安です（例：30歳男性、1口277円/月）

特長2 死亡時保障額は最高1600万円

特長3 事故による入院もワイドに保障

特長4 医師の診査はありません 告知のみでお申し込みいただけます

特長5 掛金のお支払方法も簡単です

お問い合わせはジャグラ事務局・酒井まで

Tel.03-3667-2271

私たちはSDGsのゴールの実現に協力していきます。



印刷現場の環境改善を考える

※詳しくは…



環境対応資材

ECO no MISTは、お客様と共に「環境」と「価値」を考えるモトヤの資材ブランド。消耗品による環境改善を実現します。

※ECO no MIST全商品はグリーンプリンティング (GPマーク) を認証取得しています。



『印刷業向け業務パッケージの決定版 P-MAN』

印刷情報管理システム



P-MAN Business e-Brain

見積・受注・制作予定・印刷予定・加工／配送予定
在庫・発注仕入・販売・原価システム

営業情報を正確に早く、制作・製造部門に伝えることで生産性の向上、ミス・ロスの低減を行い利益向上を計ります。

『今こそ!! 情報の見える化 (MIS)』

- 経営者に必要な利益管理の仕組み創りをお手伝いします。
- 企業のコミュニケーション向上により顧客満足度・従業員のやる気を高め利益UP。
- 富士フイルム㈱ ワークフロー XMF との連携機能を搭載。

印刷のソリューションプロバイダー

株式会社 モトヤ

大阪 〒542-0081 大阪市中央区南船場1-10-25 ☎(06)6261-1931(代)
東京 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-5-5 ☎(03)3523-8711(代)
横浜・千葉・名古屋・京都・神戸・姫路・福岡

通信制 JAGAT指定 DTPエキスパート認証試験対策講座

入学随時。どこでも、いつでも、何度でも学習出来ます。
合格実績あるモトヤDTPスクール★合格者累計約700名が運営。
通信制で初めて、唯一の(公社)日本印刷技術協会指定講座。



BOOK

お知らせ

ジャグラ刊

印刷業界の個人情報保護ガイドブック第6版増補版

2020年版

～ジャグラ会員へは1部無料で送付します～

本号同封

個人情報保護委員会（樋貝浩久委員長）では、このほど『印刷業界の個人情報保護ガイドブック 第6版増補版—2020年版』を刊行しました。

×

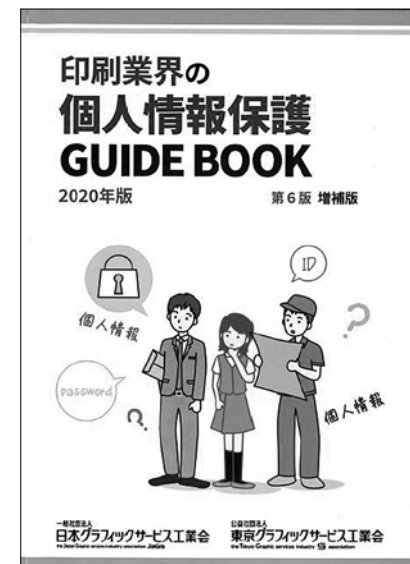
本書は「第6版」として、JIS Q 15001-2017に対応した内容で2018年に発行したガイドブックに、「2020年6月に改正された個人情報保護法の概要解説」「テレワークやクラウドサービス利用の注意点」等を加え、「第6版増補版2020年版」として刊行するものです。

具体的な改正法の概要は、①個人の権利の在り方、②事業者の守るべき責務の在り方、③事業者による自主的な取組を促す仕組みの在り方、④データ利活用の在り方、⑤ペナルティの在り方、⑥法の域外適用・越境移転の在り方、以上6点です。

主なポイントは、①個人が望まないデータの利用停止を企業に請求できる「使わせない権利（利用停止権）」の拡充、②匿名加工情報に加えて「仮名加工情報」を新設、③個人情報関連情報の第三者提供規制の強化、④罰則の強化です。

特に、新しく創設された「仮名加工情報」は、企業によるデータ利活用を後押しする制度で特定の個人を識別できないよう、氏名を削除するなどしてデータを加工したもので、これまでの個人情報と匿名加工情報の中間に位置付けられるものです。

ガイドブック後半には、個人情報保護のための安全管理措置（日印産連と共通）、事業者が参照すべき法令・国が定める指針、その他の規範（例）、JaGra個人情報保護ガ



A4判 88ページ 本文2色刷り

イドラインも記載しています。

また、エピソードとして、①仮名加工情報、②IPAが提唱する：日常における情報セキュリティ、③テレワークにおける情報セキュリティ対策（総務省）、④クラウドサービス利用について（総務省）の解説を加えています。

本ガイドブックは、改正法への対応はもとより、プライバシーマーク付与適格性審査にも活用できる内容となっているので、各社の個人情報保護に役立てていただけます。

ジャグラ会員へは1部無料で送付しますが、複数冊必要な場合は1800円（税・送料込）でお頒けしますので、下記書式にてお申込みください。

※ジャグラHPからも申込み可能です
<https://www.jagra.or.jp/2020/11/05/7592/>

印刷業界の個人情報保護ガイドブック 第6版増補版2020年版 頒価1800円（税・送料込）

申込書にご記入のうえファクスしてください。請求書同封で本書をお送りしますので、代金を指定口座にお振り込みください。（振込手数料はご負担ください）

申込先 Fax.03-3661-9006

社名				所属	
住所	〒				
Tel		Fax		E-mail	
氏名				購入冊数	冊

印刷産業における取引環境実態調査

第5回：事業改善の機会



本誌では7月号より、経済産業省が「印刷産業の取引実態の現状を把握し、持続可能な印刷産業への方策を探る」ためにまとめた報告書を連載しています。今月は「事業改善の機会」の部分から、主要なデータを抜粋して紹介します。

×

報告書では本章の冒頭にサマリー（要約）が記されていますので、先ずそれをご紹介します。

印刷会社の事業改善の機会（サマリー）

小ロット印刷の効率的対応や、改善点を見つける工程可視化に課題
 全社では営業・事業企画・収益管理に改善余地がありえる

◎課題意識（印刷関連）は、「小ロット対応」「工程見える化」などが主

①ニーズの高まる小ロット対応は、手間がかかるために、機械化・自動化したいものの、案件割合が未だ小さく、設備導入の費用負担が大きいため、対応しがたい状況

②工程は印刷物・仕様ごとに多様で、工程自体も複雑なため、見える化しにくい状況

◎課題意識（印刷外）は、「営業」「事業企画」「収益管理」が主

①7割近くが「営業」に課題認識。営業専任チームが無い、採用・育成が難しい、受注型マインドからの脱却が難しい、等の状況。営業専任者を有す企業は5割に留まる

②また、顧客・案件・工程ごとの収益管理、新事業企画に際しても、それぞれ必要性は認識しているものの、十分には取り組めていない状況

◎上記課題（工程把握・営業強化・収益管理など）へ参考となる工夫事例も見られる

①「営業」面では、異業種営業の登用や営業外業務の削減、インセンティブ強化、リファラル受注等の取組、また、Web 広告・自社オウンドメディアなど新たなチャネルでのマーケティング等が見られた

②「収益管理」面では、不採算案件・顧客の把握、原価計算・積算確認の徹底、などが挙げられた

③個社事例として、原価管理の MIS 導入と勉強会を開く企業群や、外部クリエイターと協業してサービス領域を広げる取組、など参考となりうる

「印刷産業における取引環境実態調査」に関する報告書

経済産業省HPよりダウンロード可能

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/contents/2019_printing_surveyreport.html



課題①

小ロット対応に手間を要するものの、それを解決するための設備投資も判断が難しい
 工程可視化も関心あるが、実現できていない

●印刷工程上の課題意識（N708/MA）

少量多品種化による版取り替えが増えている	381 (54%)
オペレーション管理・工程管理が不十分で、ムダや非効率が見えにくい	246 (35%)
手動作業であり、人手が不足する中で自動化の余地がある	230 (32%)
工程上で従業員の手持ちが発生している	225 (32%)
手動作業であり、短納期に対応するために自動化の余地がある	210 (30%)
上流工程に起因する作業が増えており、上流対応のためのノウハウが必要である	117 (17%)
データ形式がバラバラのため手間が生じる（設備メーカーによる違い等）	101 (14%)
その他	24 (3%)

■その他（自由記述コメント）

◎小ロット用の設備投資を決めにくい

→多品種の少量生産が生産性を押し下げている

→ロットが小さいため、機械化もためらわれる

→新規設備、設備更新、どちらにしても資金がなく、融資は受けられるものの、売上減によって返済能力がなく足踏み状態である

→今後の動向が読みにくく、設備投資しにくい

◎工程が多様かつ多岐に渡るために管理しにくい

→常に規格外の生産となるため、工程管理がしにくい

→工程管理がシステム化されておらず、個々のスキルに頼りがち

課題②

課題意識ある工程は「営業」「企画・事業戦略検討」「収益管理」が主
 特に7割近くは「営業」に課題意識あり

●印物工程外での課題意識（N732/MA）

印刷前後の工程	共通業務	全社管理
入稿 158 (22%)	営業 493 (67%) ※	企画・事業戦略検討 321 (44%)
データ整形 223 (30%)	見積り 220 (30%)	オペレーション全体管理 217 (30%)
製版 99 (14%)	発送 84 (11%)	収益管理 248 (34%)
刷版 57 (8%)	物流 112 (15%)	その他 6 (1%)
製本加工 204 (28%)	請求処理 56 (8%)	
	印刷データ管理 110 (15%)	

※「営業」の自由記述コメント

→一昔前には時間が足りない程の仕事があったが、この時代になっても、なお昔と変わらない意識なので「受け身」のみままで責任を持たない者が多くなった

→営業の平均年齢が50歳超で変化が難しい

→営業職が無い また採用および人材育成も難航

→昔ながらの営業方法で受注している Web を使ったマーケティングや事業戦略、営業戦略がない

工夫①

実際、営業専任者を有す企業は回答者の中でも半分ほどに留まる

●案件獲得に向けた工夫（N549/MA）

提案を行う役割を持つ専任の組織を置いている	131 (24%)
提案を行う役割を持つ専任の担当者を置いている	274 (50%)
オンラインでのマーケティング活動に注力している（Web広告等）	122 (22%)
オフラインでのマーケティング活動に注力している（展示会等）	76 (14%)
印刷通販等のプラットフォームに登録している	23 (4%)
需要地（東京・大阪・埼玉・愛知）に本社・営業所を置いている	181 (33%)
その他	52 (9%)

■その他の工夫（自由記述コメント）

◎地域密着での案件獲得

- 地域の活動に積極的に参加している
- 地域団体との共同事業
- 道の駅、小売店と契約。OEM 商品を置かせてもらっている
- 受注日に納品する工夫。地域に根ざした経営方針

◎リファラル（紹介・推薦）受注

- 関連業者からの紹介
- 各種団体、組合への積極的参加
- 商工会議所、製本組合に入会している
- 同業、広告代理店、材料屋、取引金融機関の紹介

◎一方、案件獲得面で工夫は難しいと答える企業も

- 下請のため、親会社が受注しないと仕事が回ってこない
- 親会社の専任チームに協力を依頼している

工夫②

工夫面では、コスト削減と受注量・単価増の取組は多く挙げられ
前述の課題の解決に資する工夫も含まれる

●工夫例の挙げられたカテゴリ（N426/MA）

コスト削減	253 (59%)
受注量増	237 (56%)
受注単価向上	233 (55%)
工程・サービス拡大	157 (37%)
稼働の平準化	151 (35%)
その他収益改善	133 (31%)

●具体的な工夫例（N=426/自由記述）

■コスト削減の工夫

◎工程改善

- 製造工程の見直し、簡素化

◎外注コストの削減

- 3 社以上の見積りをとる
- 県外の外注先を開拓する

■受注量増の工夫

◎ニーズ対応

- オフセットからオンデマンドへ
- 前後工程を含む提案

※マーケティング・チャネル改善

- セミナー、展示会、オウンドメディア、Web 広告

■単価向上の工夫

※顧客／案件／単価の管理

- 赤字受注・案件の見直し
- 全積算の管理職チェック
- 見積り時と実際の原価管理
- 採算の悪い取引きの打ち切り

※ 課題意識 「営業」「収益管理」等に係る取組

◎原材料費の削減

- 共同仕入れ、仕入先の選定

※収益状況のモニタリング

- 各社月次の採算ベース検出、利益を生む商品の確認
- コストの見える化、MIS 導入

※営業の強化

- 営業員の営業外業務削減
- 他業種の営業 OB を顧問化

※リファラル受注

- 同業、広告代理店、材料屋、取引金融機関の紹介

◎高付加価値化

- 企画含、前後工程の受注

◎値上げ交渉

- 原材料の値上げを説明
- 値引き要請の断り
- リピートの単価見直し

本誌1月号 新年名刺広告大募集 申込締切12.11金

ジャグラの機関誌『グラフィックサービス』では、1月号誌上において恒例の新年名刺広告を実施します。

なお、地協・支部よりの出稿につきましては、掲載料金が割引となりますので、ぜひご利用ください。

◎掲載料金

- 1コマ／縦組 60×42ミリ ￥8,000 (税込￥8,800) →支部・地協 ￥5,000 (税込 ￥5,500)
- 2コマ／横組 60×87ミリ ￥13,000 (税込￥14,300) →支部・地協 ￥10,000 (税込 ￥11,000)

◎申込方法 本紙に必要事項をご記入の上、下記宛ファクス（または郵送）してください。

グラフィックサービス(株) 代表取締役社長 日本太郎 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階 TEL 03 (3667) 2271 FAX 03 (3661) 9006	標準パターン見本	グラフィックサービス(株) 代表取締役社長 日本太郎 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル7階 TEL 03 (3667) 2271 FAX 03 (3661) 9006
---	-----------------	---

「グラフィックサービス」新春名刺広告申込書

申込日 2020 年 月 日

社名	フリガナ	担当者名	フリガナ
住所	〒		
Tel	Fax	E-mail	
体裁	☐ 1 コマ ☐ 前年通り（既出稿者） ☐ 2 コマ ☐ 標準パターンで OK（新規出稿） ☐ 版下データ支給（独自デザイン）		

広告原稿はこちらにご記入ください➡

上記、標準パターンで申し込む場合は、
右枠内に原稿をご記入ください。

連名、本店 / 支店、Web、ロゴ使用等、
独自デザインをご希望の場合、
完全版下データをご支給ください。
（PDF データをお願いします）

社 名	
肩書き・氏名	
住 所	〒
TEL	
FAX	

【申込み先】 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 名刺広告係（酒井）

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 tel.03-3667-2271 fax.03-3661-9006

※版下データはメール添付にて edit@jagra.or.jp 宛お送りください

ホリゾンと SCREEN

印刷工場のスマートファクトリー化に向けた、AI ソリューションの共同開発に合意

SCREEN社プレスリリースより

(株)ホリゾン（以下、ホリゾン）と(株) SCREEN グラフィックソリューションズ（以下、SCREEN GA）は、印刷工場のさらなるスマートファクトリー化を実現するために、AI を活用したソリューションを共同で開発することに合意しました。

×

近年、印刷物の多品種・小ロット・短納期要求が高まり、印刷・製本工程の効率化や稼働率向上が課題になっています。一方、生産現場では、装置や設置環境に起因するもの、印刷データ・オペレーターのスキルによるものなど、多様なトラブルが発生し、生産効率化の妨げとなっています。また、トラブル解決や生産性向上を解決する現場スタッフの高齢化や後継者育成も課題のひとつとなっています。このような背景もあり、両社はデジタル印刷機と後加工機のノウハウを学習し、オペレーションを最適化する AI エンジンの開発に向けて合意したものの、

両社は今後、デジタル印刷によるスマートファクトリーの実現に向けたさまざまなソリューションを提供していくと

に、印刷工程と後加工工程を統合的に捉えた視点から技術開発を行っていくことで、より印刷業界に求められるサービスを提供するとしています。

●ホリゾンショールーム「Horizon Innovation Park (次頁広告)」に SCREEN GA 製ロール式高速モノクロインクジェット印刷機「Truepress Jet520HD mono」を世界初展示！

ショールームでは Hunkeler 社の前後装置およびホリゾンの「Smart Binding System」とインライン接続し、多品種・小ロットの無線綴じ書籍のオンデマンド生産を体現できます。



Horizon Innovation Parkに展示される無線綴じ書籍のオンデマンド生産ライン 右端のマシンが SCREEN GA 製 Truepress Jet520HD mono

お知らせ

JIPDEC が注意喚起 マルウェア Emotet にご注意ください！

身に覚えのないメールの添付ファイルは開かないで！

プライバシーマークを運営する一般財団法人日本情報経済社会推進協会（略称 JIPDEC）より、マルウェア Emotet（エモテット）の感染に注意するよう喚起がありました。

×

マルウェア（malware）とは、コンピュータウイルスやワームなど、不正かつ有害に動作させる意図で作成された悪意のあるソフトウェアや悪質なコードの総称。Emotet は 2019 年頃よりマイクロソフトの Word や Excel のファイルを添付したメールとして確認されていましたが、今年 7 月以降、急増しているとの報告があり、今回の注意喚起にいたったものです。

感染防止対策は下記の通り。

- ①身に覚えのないメールの添付ファイルは開かない。メール本文中の URL リンクはクリックしない。
- ②自分が送信したメールへの返信に見えるメールであっても、不自然な点があれば添付ファイルは開かない。
- ③ OS やアプリケーション、セキュリティソフトを常に最新の状態にする
- ④信頼できないメールに添付された Word 文書や Excel ファイルを開いた時に、マクロやセキュリティに関する警告が表示された場合、「マクロを有効にする」「コンテンツの有効化」

というボタンはクリックしない。

⑤メールや文書ファイルの閲覧中、身に覚えのない警告ウインドウが表示された際、その警告の意味が分からない場合は、操作を中断する。

⑥身に覚えのないメールや添付ファイルを開いてしまった場合は、すぐにシステム管理部门等へ連絡する。

詳細は JIPDEC の HP を参照してください。また、JPCERT/CC、IPA でも注意喚起や情報提供が行われております。

◎ JIPDEC（一財）日本情報経済社会推進協会
<https://privacymark.jp/news/system/2020/1016.html>



◎ JPCEART/CC
 （一社）PCEART コーディネーションセンター
<https://www.jpccert.or.jp/newsflash/2020090401.html>



◎ IPA（独）情報処理推進機構
<https://www.ipa.go.jp/security/announce/20191202.html>



Horizon Change the focus

Horizon Innovation Park 10/28 水 グランドオープン



株式会社ホリゾンは、滋賀県高島市にある本社びわこ工場内に、印刷・製本工場のスマートファクトリー化を具現化する Horizon Innovation Park を、2020 年 10 月 28 日にグランドオープンしました。

技術開発と、情報発信拠点となる Horizon Innovation Park は、ショールーム、トレーニングルーム、セミナールーム、検証センター、動画配信スタジオ、飲食スペース、PRINT LAB. などの設備を有する地上 2 階建て延べ 10,000 m²の施設です。

ワークフローオートメーションと、フィジカルオートメーションの融合をコンセプトにした 1,500 m²の展示面積をもつショールームでは、パートナー企業と連携し上流システムから印刷、後加工、デリバリーまでの工程を自動化、省力化する印刷製造ラインをご紹介します。

PRINT LAB. では、協働ロボットと連動した無線綴じ製本システムでホリゾン製品のマニュアルを生産している現場を見学していただくことが出来ます。工程管理支援システムと、生産管理システムが連動した最新のワークフローをご覧ください。

Horizon Innovation Park は、世界中のお客様や、パートナー企業の皆様がダイレクトにコミュニケーションを行う場として、また、ポストプレスにフォーカスすることで得た気付きを検証する場としてお客様のビジネスの発展に寄与していきます。



株式会社ホリゾン 本社びわこ工場 ショールーム (Horizon Innovation Park)
 〒520-1501 滋賀県高島市新旭町旭 1600

ホリゾン・ジャパン株式会社 www.horizon.co.jp

本 社 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL. 03(3863)5361 (代) FAX. 03(3863)5360
 東 京 支 社 〒132-8562 東京都江戸川区松江5丁目10-9 TEL. 03(3652)7631 (代) FAX. 03(3652)8083
 京 都 支 社 〒601-8206 京都市南区久世大藪町510 TEL. 075(933)3060 (代) FAX. 075(933)4025
 福 岡 営 業 所 〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17 TEL. 092(626)8111 (代) FAX. 092(626)8112



法律相談

法律相談ネットワーク

ほうしんかい

「グラフィックス法親会」のご案内

皆で入ろう、困った時のために！ いつでも気軽に相談できる、皆の法律専門家！

何かと相談事・悩み事の多い時代を迎えています。特に最近では経営上の係争が多く発生していますが、このような問題に直面したとき、気軽に相談できて、アドバイスをもらえる「顧問弁護士」が身近にいればなにかと心強いものです。しかし顧問弁護士料は普通最低でも 50 万円以上（年額）かかるといわれており、中小企業にとってその費用捻出は非常に困難です。

法律相談ネットワーク「グラフィックス法親会」は、「会費制によって、いつでも相談にのっていただける身近な顧問弁護士を持とう」というジャグラ会員有志のグループです。担当弁護士は、印刷業界に造詣が深く、これまでも様々なご相談に対応していただいております。経営の難しい時代、身近な法律相談ネットワークとして、出来るだけ多くの仲間に参加していただき、この会を育てていきたい所存であります。つきましては入会のご案内を申し上げます次第です。皆様のご参加をお待ちしております。



法親会・会長 添田隆男 (㈱サンライズ / ジャグラ 18 代会長)

法律相談ネットワーク「グラフィックス法親会」の概要

- 専 任 山本正 / 岡田尚人 弁護士※
- 会 費 20,000 円 / 年 (税別)
※年度途中入会は月割換算 (年度末 12/31)
- 会員特典 ① 無料相談 (随時)
※ 遠方の場合は電話・ファクスで対応
② 情報交換会 (適時開催)
- 事務代行 (入会申込先・問い合わせ先)
一般社団法人日本グラフィックスサービス工業会・事務局
東京都中央区日本橋小伝馬町 7-16 〒103-0001
電 話 03-3667-2271
ファクス 03-3661-9006

入会申込書

申込日 20 年 月 日

fax.03-3661-9006

フリガナ	フリガナ
社名	氏名
〒	
Tel	Fax
	E-Mail

※前担当の今西一男弁護士ご逝去のため、担当弁護士が山本 / 岡田両弁護士に変更となりました

TOKYO QUALITY.

すべての SP コミュニケーションに最良の品質を。



東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日 (月～金) 9:00～17:00 E-mail : support@lithmatic.co.jp



Lithmatic
http://www.lithmatic.net

理事会&委員会通信 ジャグラの活動報告です

——経営技術研究委員会/マーケティング委員会/生産性向上委員会 議事録より

8.24 経営技術研究委員会（第2回）

1. 委員会活動について

1) 働き方改革モデル企業、取材先ほかの検討

西日本ブロック6社、中日本ブロック1社、北日本ブロック6社の候補を示して検討。また、ヒアリング項目を検討した。

【主な意見】

◎厚生労働省の「スタートアップ労働条件」は参考になる。

◎フリーマー労働者（退職してから訴訟を起こすなど）が問題となっている。

【決定事項】

→中日本ブロックはあと1～2社候補を追加する。

→次回委員会でヒアリング項目を決定する。

●出席

委員長：向井一澄 副会長：宮崎真

委 員：渡辺辰美、熊谷晴樹、稲本創、安達睦男

8.25 マーケティング委員会（第2回）

1. 委員会活動について

1) 元気な会社の定義付けと取材先ほかの検討

前期より「元気な会社へのヒアリング」を行っており、今期も継続するが、そもそも「元気な会社とはどういう会社か」、摺り合わせを行った。また、取材先候補40社余について推薦理由を各委員が発表。ヒアリング項目についても検討した。

【主な意見】

◎元気な会社とは、新しいことにチャレンジしている、活気がある、さらに儲かっていればベストというイメージ。(山本)

◎元気な会社は、社内に活気があり、現場スタッフが生き活きしている、印刷機が稼働しているなど、訪問した際の雰囲気判断している。(田治)

◎印刷会社としてのスキルを使って印刷以外の分野にチャレンジしている会社や、新しいサービスを展開している会社を取材先のターゲットとしたい。(齋藤)

◎展示会に出展するなど、新たな取り組みをしている面白い会社を取材先としてピックアップした。(萩原)

◎コロナ禍で元気な会社を見つけるのは非常に難しい。そのなかで売上を上げている会社として注目しているのがラクスルである。ラクスルは新しい発想で自らは印刷機を持たない印刷会社として事業を展開、現在は「ハコベル」という新たな物流事業を行っている。(吉澤)

◎元気な会社とは、売上が上がっていることで人材育成をし、付加価値を高めている会社。(吉澤)

◎コロナ禍でも売上げを上げている会社を分析すると、テイクアウトニーズに応えたパッケージ制作を行っていた。(吉澤)

【決定事項】

→次回までに取材先候補について、地域、社員数、推薦理由をまとめる。また、ヒアリング項目をさらに深掘りする質問を考えることにした。

●出席

委員長：齋藤秀勝

副会長：岡本泰

委 員：萩原直基、吉澤和江、田治宏敬、山本康彦

8.27 生産性向上委員会（第2回）

1. 委員会活動について

1) テーマの検討

「自社のいま見えていない1番の点を見える化する為に、何が必要で、具体的にどう取り組むか」をテーマに、

①現状自社で一番見えていない点は何か？

②その見えていない点を解決する為に、どのような考え方やツールが必要か？

③その見えていない点に具体的にどの様にアプローチするか？以上3点について、瀬尾副委員長が自社の管理会計事例も含めて発表。その後、出席者による発表、意見交換があった。

【主な意見】

◎納期・スケジュール管理を強化したい。そのために制作時間がどれだけかかっているかデータを取る必要がある。

◎営業の動き、制作時間、印刷機の稼働率が見えづらい。キントーンを導入したことにより、生産性向上に効果が出てきた。

◎利益管理のシステムを導入しており、今後について検討中。

【決定事項】

→自社でまだできていないことを1つ抜き出し、改善に向けた取り組みを委員会の課題とし、定期的に活動報告する。

●出席

委員長：稲満信祐

副委員長：瀬尾淳

副会長：宮崎真

委 員：岸徹、熊谷健司、笹井靖夫、黒沢武志

その他：イナミツ印刷・半田（オブザーバー）

JaGra News

業・界・の・動・き

ジャグラ関連 | 日印産連 | 印刷業界全般 | 行政情報etc.

ジャグラ

中村会長に藍綬褒章

(令和2年秋褒章)

中村耀会長（本名：中村良一 /NS印刷製本㈱）が、令和2年秋褒章にて藍綬褒章を受章しました。

×

中村会長はジャグラの理事・常任理事・副会長・会長を歴任。この間、ジャグラが関東複写センター協同組合と合併する、これまでにない他団体との業務提携を実現しました。また、OBネットワーク組織「JaGra マスターズクラブ」を発足させるため、準備委員会を立ち上げ、企画の構想から設立までを主導。さらにPOD機のビジネスモデル研究を行うPOD研究部会を創設し、POD機による新商品の開発など業界の売上げ増加に貢献。その他、ジャグラ会長として業界の活性化に尽力しています。

NS印刷製本㈱（東京・新宿）は父親が創業した会社で、氏は2代目。創業当時は紙卸業と製本業を行っていましたが、昭和52年に大手取引先の要望で梱包、配送業務を担う㈱ユニバーサル梱包を創業。氏は幅広い顧客ニーズに応え、新規顧客の獲得に向けて、生産部門の強化に取り組み、企画デザイン、印刷、製本、梱包、発送までの一貫体制を構築しました。

■主な経歴

昭和17年10月24日生まれ

昭和40年3月31日 学習院大学 法学部政治学科 卒業

■民間団体歴

平成15年4月1日～平成22年3月31日 東グラ 理事

平成22年4月1日～平成26年3月31日 同上 副会長

平成26年6月26日～平成28年3月31日 同上 会長

平成18年9月8日～平成20年9月8日 ジャグラ理事

平成20年9月9日～平成26年3月31日 同上 常任理事

平成26年4月1日～平成26年6月7日 同上 常任理事

平成26年6月8日～平成28年6月24日 同上 副会長

平成28年6月25日～現在 同上 会長

■主な賞罰

平成19年11月6日 東京都新宿区長賞（地域貢献）

平成20年9月17日 印刷振興賞（日印産連）

平成25年10月9日 東京都中小企業団体中央会会長表彰

平成27年11月16日 四谷税務署長感謝状（納税優良企業）

平成28年10月1日 東京都知事表彰（産業功労）

令和元年9月13日 印刷功労賞（日印産連）

その他

企画展「ガリ版の道具たち展」開催中

ガリ版伝承館（滋賀）12.6まで

滋賀のガリ版伝承館は毎年この時期にイベントを企画していますが、今年は「ガリ版の道具たち展」を12月6日まで開催中です（入館無料、月火休館）。

×

ガリ版伝承館は、謄写版を開発した堀井新治郎生家を堀井家が地元自治体に寄附したことを契機に平成10年に開館したもの。滋賀県支部・サンライズ出版㈱の岩根社長も協力しています。

今回の企画展ではシンポジウム（基調講演は『ガリ版文化史』の著者・田村紀雄東京経済大学名誉教授）や体験講座が開催されますが、山形県支部の後藤卓也支部長（中央印刷㈱）と本誌に「版画と謄写とこれから」を連載中の版画家・神崎智子さんの活動紹介も行われます。



会員の異動

●新入会員

◎㈱コトブキ（東京・城東） 渡瀬 錦二

〒130-0004 墨田区本所 2-9-3

Tel 03-3625-9224 Fax 03-3625-5139

URL http://www.i-kotobuki.co.jp

我が社の自費出版事情

第3回：(有)一粒社（愛知県半田市）<https://www.ltsubu.com/>

同社・営業部 絹川周作

プライベート出版という域を超え、昨今では社会問題など幅広いカテゴリーをカバーしている「自費出版物」。ジャグラ会員の「自費出版」への取り組みを紹介する連載の第3回目は、愛知県の(有)一粒社さんにご寄稿いただきました。同社のオンデマンド自費出版物は、ジャグラ作品展・出版印刷物部門で経済産業大臣賞を受賞（平成28年度）するなど、その高い印刷品質にも定評のある会員企業です。

×

一般印刷と自費出版

弊社では30年ほど前より、現会長（当時社長）の都築延男が、一般印刷物の中の1つとして自費出版を手掛け始めました。20年程前、入社間もない私個人の社内での自費出版の捉え方は、大学の先生方の教科書と自分史のような自費出版もあまり区別なく、大きな括りでブックカバーを付け、ISBNを付ける案件という程度の認識でした。

私が自費出版の業務に携わったのは、2011年の終わりだったと記憶しています。この年は皆さんもよくご存じのとおり、東日本大震災があり、被災地より遠く離れた愛知県では、物資や計画停電等で困ることはありませんでしたが、リーマンショックに続き、経済面の影響が大きくでた年でした。特に愛知県ではトヨタ自動車とその関連会社の影響が大きく、震災で自動車の製造が落ち込みストップしたため、各関連会社にも大きく波及し、その余波が印刷会社にもおとずれ、当然、弊社の売上げも厳しいものとなっていました。

そうした中、地域に関係なく仕事につながるインターネットを使った自費出版に目を向けることになり、元々自費出版を担当していた現会長に私に加わり、二人で自費出版の仕事をやり始めました。主に、電話での対応は会長、メールでの問い合わせは私が担当とし、今もその大きな構成に違いはありません。そして

現在、弊社で「自費出版アドバイザー」の資格を取得したのは、会長、私を含め4人おり、それぞれが一般の印刷物の案件を抱えながら、自費出版にも対応しております。目標は自費出版のみに特化した部門の設立ですが、その道のりは今なお遠く、一人の専任も置くことができない、厳しい状況が今後も続きそうです。

印刷と出版

自費出版に携わり始めた当初、出版という名前がつくと一般の印刷物とは少し違い、複雑な工程を要するかのようになっていましたが、日頃より、とりわけ冊子を手掛けることが多いジャグラ会員の皆様はよくご存じだと思いますが、冊子というのは印刷物のなかでも、元々決めることが多く、見積りもチラシのように、デザイン代と印刷代という形でスッキリと出せるものではありません。

表紙・本文の紙、それぞれの刷り色・製本方法等多様にあります。そういった中で、そこまで抵抗感なく自費出版に携われたのは、冊子の延長線上に自費出版をとらえた軽印刷業の営業ならではの感覚だったのかもしれない。それでもブックカバーや見返し、ISBNとJANコードなど自費出版を始めて、改めて覚えていかなければいけないものも多くありました。また、アマゾンでの販売も始めたため、在庫管理からお金の流れまで、気を使わなければいけない新たな業務にも当初は不安を覚えていました。そうした中、自費出版での初めての大きなクレームが出てしまいました。

初めての大きなクレーム

ネットで受注するということは、その案件のほとんどは県外からの仕事となります。その対応の仕方も地元の家との取引における対応と違ってきます。



初めて担当した自費出版物
岡崎シロ 著『自転車
の返ってきた日』



落丁でクレームとなった自費出版物
遠井久仁絵 著『とんぼのめがね
七色飛行』

クレームの案件は2013年1月に受注し、納品は同年5月末の商品で、仕様は四六判250ページ300冊、本文モノクロのソフトカバーのエッセイでした。お客様は奈良県在住の当時77歳の主婦の方で、データはパソコンに長けたご主人が作成し、ご入稿頂いたと記憶しています。クレーム発生当日は、普段どおり一般の印刷物の外回りの営業中に、会社から電話が入り、折り返しお客様へ電話をしました。クレーム内容は落丁でした。

お客様が怒っておらず、大変穏やかに対応していただいたのは幸いでしたが、私のほうは大変混乱してしまいました。普段の仕事なら、すぐに回収・検品をして、やり直しという流れになりますが、本案件は県外の遠方で、宅配便5箱でお送りしたものでした。自費出版でのクレームは初めてというのも心理的に大きく影響しました。

一般の印刷物と自費出版の大きな違いの1つは、その冊子・本に対する作り手の想い、読んでもらいたいという気持ちだと感じています。普段の一般印刷の仕事で、商品にそこまでの想いを感じることは稀です。著者が長年したためたものを1冊の本にするという想いは格別です。自分の本を出すことは、稀なケースを除けば、ほぼ一生に一度の体験です。この想いの強さをひしひしと感じていた中でのクレームでしたので、「やってしまった」と一般の印刷物の仕事より強く感じてしまったのは、致し方なかったと思います。

クレーム当日は、もちろん社長に相談し、お送りした全品を着払いで送り返してもらい、全品検品し、落丁本はお取替えするという対応でお客様にもご納得頂きました。ただ、クレームの対応の電話をしている最中、心中では奈良県までお詫びを兼ねて回収か、やり直したものを納品に何うのかな、という考えも頭の片

(有)一粒社（愛知県半田市）の事例



初めての書店流通となった書籍
常木明 著『男の四世代料理』

隅にはあり、これが自費出版の仕事の怖さだと改めて痛感しました。その時はたまたま運が良かったのですが、もしかしたら大事になっていたかと思うと肝を冷やす思いでした。

そしてその後、同じ年の7月、一粒社で初めて書店流通の仕事を受注することとなりました。

初めての書店流通

この方は隣の静岡県の在住の男性の方で、出版当時71歳。かつては日本でも名の知れた大手企業の副社長までされた方でした。内容は男の料理本ということで、わざわざご夫婦でご来社頂き、お打ち合わせをさせて頂きました。仕様は、A5判100ページ程のフルカラー、ソフトカバー付、400部です。

原稿はテキストデータで頂けましたが、今回、大きな問題となったのが、一般の方が撮影された写真、それも料理の写真ということでした。記録のために撮りためていた写真から寄せ集めるため、ものによっては撮影時の光が弱く、印刷するには明度・彩度も乏しく美味しそうには見えない写真もありました。俗にいうシズル感がない状態です。これが普段の案件でしたら、実際に校正を何度もお持ちして、膝と膝を突き合わせて面談し、色の調整を行えるのですが、本件は遠方でしたので、校正のやり取りは基本郵送になります。また、色の指示も直接打ち合わせをするよりも、ニュアンスがはるかに伝わりにくく、これに大変苦労をしました。ただ、運が良かったのは、著者があまり細かなことを気にされない方だったということです。これが細部にまで色にこだわる方でしたら、大変だったと思います。

前述した通り、著者は名だたる企業で副社長までさ

れた方でしたが、物腰も柔らかく温和な方で、私たち以上に、本を作る・出版という不慣れな作業にも柔軟に対応して下さいました。「今回、私たちとしても初めての書店流通になります」というお話をしても、快く信頼下さり、お任せを頂きました。

書店流通ということで、スリップを弊社で初めて作ることになりました。今まで自分が書店で本を購入しても、何の意味かも分からず、また中にはコンビニなどで本を買うと、スリップが抜き取られず、そのまま本に挟まった状態で本を読み始め、煩わしい思いをしたあのスリップを作成する——「書店流通するんだなぁ」という実感がわいた瞬間でした。

書店で手に取ってもらうために、初めて帯をつけたのもこちらの本でした。これ以来、私が担当する自費出版で帯をつけるものは、すべて私が本を読んで自らコピー文を作成し、ご提案するようにしています。その理由は、帯は何といっても目を引くコピーが重要で、目的は宣伝です。それを著者ご自身で書くことは、自分を褒めたたえる作業になり、照れくさいのではないかと感じたのと、これも大きな括りでは出版に携わる仕事の愉しみの1つだと感じたからです。

世の中で流通している書籍の帯の文章は、有名人が推薦文を書いているものも多く、それだけで箔が付き、十分な宣伝効果を得られます。一方で自費出版ではそういった方法での宣伝は打つことができません。それなら、この本の最初の読者である私が、また担当者としてお客様に寄り添うという意味でも、自分が著者の思いをくみとり、本の宣伝文とともに、著者の一番伝えたいものを帯文としてまとめようと考えました。自費出版は読んで字のごとく、自費で本を制作します。さらに書店流通ともなれば、その分も自費での負担となるため、当然費用も高額になります。しかし裏をか



書店流通した中で一番売れている書籍
陳鳳鳴 著『中国語四声の法則』

えせば、それほど伝えたい残したい何かがあるということです。それをすくい取ることが出来ればと思って今も帯文を書いています。

こうして初回の打ち合わせと、その後の郵送と電話での校正のやり取りの末、ようやく本が完成しました。著者の希望は主に地元の書店において欲しい、ということでした。この本の制作部数は400冊です。商業出版の書店流通としては、あまりにも少なく感じますが、自費出版の書店流通としては、多いか少ないか、全くわからず手探りの状態でした。ただ、というかやはりというか、いざフタを開けてみると、結果は惨憺たるものとなりました。著者とそれ以上に私たちが「紙の本が売れない」という世間の出版状況は十分にわかっており、自費出版ならなおのこと売れないと理解していながらも、抱いていた淡い期待はもうくも崩れ去りました。

ただ一点心残りだったのは、著者のご希望によって、帯文や奥付にご自身のご経歴を著書に一切掲載しなかったことです。私としては、帯や経歴に企業のお名前や元副社長という肩書を前面に出せば、書店で並ん

だ時にも手に取ってもらいやすいし、お知り合いの方の目にも止まりやすいので、ぜひ掲載しませんか、といった提案をしましたが、著者の方が頑なに拒ばまれ、結果、奥付のページ上の著者略歴さえも、お名前以外生年月日と現在のお住まいのみの掲載となりました。大変な謙虚な方でしたので、まさにその人柄が表れたエピソードなのですが、帯文の宣伝文でご経歴を掲載できていれば、少しでも売上げが上っていたのではないかと悔やまれます。

現在でも多くはありませんが、書店流通をご依頼されるケースはあり、中には数百冊と売れるものもあります。弊社の中ではそれでベストセラーです。1000冊を超えて販売したことは正直ありません。ですので、弊社では書店流通をご希望される方には、某大手の自費出版のうたい文句とは真逆のことをお伝えしています。「本売れませんよ」と。

最後に

今回、機関誌の原稿依頼を受けて、自分の中で過去に携わった自費出版について、思いがけず思い起こすこととなりました。ご来社頂き実際にお会いした方はもちろん、お写真でしか顔を拝見していない方、お顔さえ拝見していない方と様々ですが、皆さんお元気にしていらっしゃるだろうかと、とても懐かしい気持

お知らせ

Adobe Flash Player のサポートが今年いっぱいで終了 — Flash を使用しているウェブサイトは早急に移行を進めてください —

再掲

アドビ社より、本年12月31日をもってFlash Playerの配布と更新を終了することがアナウンスされました。

×

Flashのサポート終了を受け、Microsoft Edge、Google Chrome等、各ウェブブラウザーも対応を発表し、12月31日以降はFlashをデフォルトで無効化するとしています。Flashの脆弱性を突いた攻撃に対応するセキュリティアップデートも配布されなくなるため、期間を過ぎてもFlashを使用したウェブサイトを開き続けた場合、サイト運営者は信用を失墜させる危険性があります。自社サイトにてFlashを使用している場合は、年末までにFlashを取り除くよう、早急に移行の準備を進めてください。

●Flashの代替

Flashの移行にあたって、代替手段として考えられる技術に「HTML5」や「JavaScript」が挙げられます。HTML5は、W3Cから2014年に正式勧告されたHTML規格で、ウェブ上で利用されるビデオや音声情報をプラグイン不要で再生可能とします。JavaScriptはウェブページに動的な要素を追加するために使用されるプログラミング言語で、インタラクティブコンテンツや、アニメーション効果などが作成可能となります。

FlashをHTML5、JavaScriptで再現するには、専門知識が必要ですので、自社での対応が難しいと判断される場合、専門業者へご相談いただくことをおすすめします。

Adobe Flash

平成28年度ジャグラ作品展 出版印刷物部門で経済産業大臣賞を受賞した 小林良生 著『北アルプス 魅せられた山々』
PODでオフセット印刷と見紛うほどの品質を実現した



事務局日誌と今後のスケジュール

10月の事務局日誌

- 1日 プライバシーマーク現地審査（神奈川）
- 2日 ジャグラ BB 委員会（Web 会議）
- 5日 ジャグラコンテスト専門委員会（Web 会議）
- 6日 プライバシーマーク現地審査（新潟）
- 7日 プライバシーマーク現地審査（新潟）→延期、ジャグラ BB/Zoom オンラインセミナー
- 14日 プライバシーマーク現地審査（長野）、日印産連ステアリングコミッティ・専務理事連絡会議（日印産連会議室＋Web 会議）→中村会長・沖専務
- 16日 広報委員会（本部＋Web 会議）
- 19日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 20日 プライバシーマーク現地審査（大阪）、SPACE-21「Zoom あそび」セミナー（Web 会議）
- 21日 生産性向上委員会（Web 会議）
- 26日 プライバシーマーク現地審査（愛知）
- 27日 プライバシーマーク現地審査（愛知）
- 27日 Web 座談会打合せ（愛知 / ㈱クイックス）→岡本副会長・谷川副会長・並木事務局長・事務局
- 28日 経営技術研究委員会（Web 会議）
- 29日 プライバシーマーク現地審査（千葉）

11月のスケジュール

- 2日 プライバシーマーク審査会（本部）
- 4日 プライバシーマーク現地審査（石川）
- 5日 プライバシーマーク現地審査（石川）
- 6日 SPACE-21 全国大会（鹿児島）→中止
- 7日 SPACE-21 座談会（高知）
- 9日 ジャグラコンテスト専門委員会（Web 会議）、プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 10日 プライバシーマーク現地審査（大阪）
- 13日 全国協議会（東京ドームホテル）→中止、緊急座談会 1部 / 2部 / 懇親会（本部）、DTP オペレーション記者会見（本部）、拡大理事会（Web 会議）
- 14日 全国協議会（東京ドームホテル）→中止
- 16日 プライバシーマーク審査（大阪）、マーケティング委員会（Web 会議）
- 17日 プライバシーマーク審査（大阪）
- 18日 プライバシーマーク現地審査（山梨）
- 24日 緊急座談会編集（本部）→岡本副会長
- 25日 生産性向上委員会（Web 会議）
- 26日 JAGAT 理事会（Web 会議）→吉岡理事、プライバシーマーク現地審査（大分）
- 28日 自費出版表彰式（アルカディア市ヶ谷）→中止

12月のスケジュール

- 2日 印刷物創注委員会（本部）
- 3日 機関誌新年号座談会（本部）→FFGS 社長・中村会長・清水副会長・岡本副会長・沖専務
- 7日 プライバシーマーク審査（長野）
- 8日 プライバシーマーク審査（長野）
- 9日 経営技術研究委員会（Web 会議）、日印産連ステアリングコミッティ・専務理事連絡会議（日印産連会議室・Web 会議）→中村会長・沖専務
- 17日 プライバシーマーク審査（神奈川）
- 21日 プライバシーマーク審査（新潟）
- 28日 仕事納め

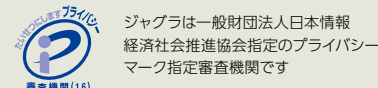
事・務・局・便・リ

いよいよ「DTP オペレーション技能テスト」が開始されました。長らく準備を重ねてまいりましたが、本テストは課題をもとに制作されたデータを評価し、DTP オペレーション技能を認定するものです。採点は専門家が1件ずつ丁寧にを行い、5段階で評価されたスコア表で結果が出るため、自身の技能レベルを数値化することができます。このため、1度受けて終わりではなく、継続することで自身のスキルアップの度合いが明らかになります。ぜひチャレンジをお待ちしています。（K.N）

月刊グラフィックサービス
No.828
2020
11

月刊「グラフィックサービス」828号

■発行日 令和2年11月10日（毎月1回）
■発行人 中村 耀
■編集人 清水 隆司
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
T E L 03-3667-2271
F A X 03-3661-9006
W E B https://www.jagra.or.jp/



■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎企画：ジャグラ広報委員会

委員長 清水 隆司 / 副会長
委員 中村 耀 / 会長
田中 秀樹 / 東京・城東
米田 和秀 / 関東複写
斎藤 成 / 東グラ専務理事
沖 敬三 / 専務理事
外部委員 藤尾 泰一 / ㈱インフォ・ディー
事務局 阿部奈津子
守田 輝夫

◎原稿・編集・校正：ジャグラ事務局ほか

沖 敬三 並木 清乃 阿部奈津子
今田 豪 守田 輝夫 酒井 玲子
長島 安雄（以上、ジャグラ事務局）
斎藤 成（東京グラフィックス/広報委員）
藤尾 泰一（㈱インフォ・ディー/広報委員）
日経印刷㈱（校正のみ）

◎渉外 並木 清乃 守田 輝夫

◎広告 酒井 玲子

◎Web 阿部奈津子

◎動画 今田 豪

◎組版/デザイン ㈱インフォ・ディー

組版 = Adobe CS6/CC ほか
フォント = モリサワOTF/モリサワBIZ+ほか



※本誌の一部にユニバーサルデザインフォントを使用しています

◎製版/印刷 日経印刷㈱（東京・千代田支部）

R I P = 大日本スクリーン Trueflow
C T P = 富士フィルム XP-1310R
刷版 = 大日本スクリーン PT-R88002X
印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P
インキ = DIC
用紙 = 三菱ニューVマットFSC-MX 菊判62.5kg

※本誌はFSC森林認証紙（管理された供給源からの原材料で作られた紙）とLED-UVインキ（リサイクル対応型）を用い、環境に配慮した印刷工場で生産されています。https://www.nik-prt.co.jp/

Copyright 2020 JaGra/禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。

原則、TMや®マークは省略しています。

※乱丁/落丁本はお取り替えいたします。



HOTNEWS
2020年11月号

ジャグラが運営する、印刷業関連のセミナー、情報動画配信サイトです。2005年の開局以来、印刷業の情報収集、人材教育ツールとして多数の印刷会社に活用されています。

学ぶ価値!!
ジャグラBB

カテゴリー ニュース ジャグラ情報



ジャグラBBの看板番組として、定期配信していたジャグラニュースが、この度、新キャスター・高階亜理沙さんを迎えて復活しました！全国のジャグラ支部長を紹介する新企画「今週の支部長」や、注目の印刷業界ニュースなど盛りだくさんの内容でお届けしてまいります。



ジャグラニュースが復活しました! JaGra News

本部の動向 行事報告 業界ニュース 支部情報

今月のおすすめ番組

▶最新情報はWEBをチェック



【賛助会員情報】デジタル印刷にプレミアムな価値を付与します
オンデマンド箔押機
DC-2+DF-2のご紹介



【賛助会員情報】工場の機械をリモートメンテナンスで大改革!



【2020年版】DTP出力の基礎（第1部・第2部）



カテゴリー ニュース ニュース・業界情報 ニュース・業界情報 ニュース・業界情報 教育と技術 DTP



リョービMHI
グラフィックテクノロジー株式会社

菊全印刷に新風を



RMGT 970 誕生

いまの環境社会に適合するために、もっとも大切なことはなんでしょうか？

地球や環境にやさしく、それでいて生産性が高い、新時代の菊全印刷機を開発しました。

新開発の RMGT 970 は、最大紙寸法 650×965 mm（最大印刷寸法 640×930 mm※1）。

菊全判用紙やK判用紙に、ジャストサイズです。

さらに、メイクレディから試刷り、本刷りまでをノンストップで行える自動印刷機能※2により、

印刷準備時間の短縮や稼働率の向上を実現します。

菊全判印刷機 RMGT 970 が菊全印刷に新しい風を吹き込みます。

※1 片面印刷時の仕様です。両面印刷時は 630×930mm

※2 スマートアシストプリンティングのオプション名称で開発中

Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

〒726-0002 広島県府中市鷺飼町 800-2 TEL 0847-40-1600

<https://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>